

防犯灯の使用に關しての留意点

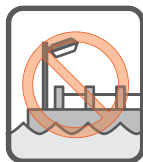
⚠ 安全に關するご注意

- 照明器具には寿命があります。設置して10年※経つと、外観に異常がなくても内部の劣化は進行しています。点検・交換してください。
- ご使用の前に、「取扱説明書」をよくお読みいただくか、お買い上げの販売店または専門施工店にご相談の上、正しくお使いください。
- 商品には安全にお使いいただくための注意シールが貼ってあるものがあります。ご使用の際はご確認の上、正しくお使いください。
- 「安全に關するご注意」については、巻末の「照明器具の正しい使い方」にも記載しておりますので、ご一読ください。▶ D119頁

※使用条件は周囲温度30℃、1日10時間点灯です。(エバーライトの場合10年：使用条件は周囲温度30℃、1日10時間点灯です。)

- 下記の使用禁止場所や施工内容をお守りください。誤って使用されますと器具落下、感電、火災などの原因となります。また、照明器具には個別の注意事項がありますので、承認図などでご確認ください。

防犯灯の使用禁止場所



海岸地帯※1または塩素を使用している屋内プールなど(耐食処理を施した照明器具・アーム・ポールは使用できます。)

※1 海岸地帯の目安は ▶ D126頁 を参照



湿度の高い場所や腐食性ガスが発生する場所



設置場所の風の影響に適した耐風速仕様の器具をご使用ください。

※電力柱、鋼管ポールに取り付けの場合は、適合のオプションをご使用ください。

防犯灯の施工時のご注意

防犯灯

エリアルクス
あかりで創る街のセキュリティ **AreaLux**

商品WEBサイト
エリアルクス

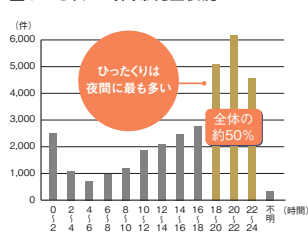
安全・安心の街づくりのために「照明」ができること。

近年、安全神話の崩壊が叫ばれる中、犯罪を少しでも減らして地域住民、特に高齢者・女性・子供が、安全・安心に暮らせる街づくりのために、全国で住民・自治体・警察が連携して防犯推進運動を展開しています。当社は「AreaLux (エリアルクス)」の考え方を基に「照明」による環境の整備を推進し、あなたの街の防犯対策をお手伝いいたします。

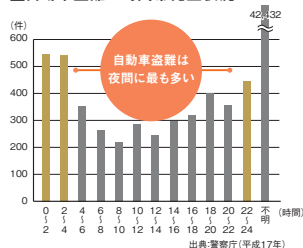
ひたくり・自動車盗難は夜間に多発しています。

あなたの街は、夜道が暗くて不安を感じることはありませんか？
ひたくりやちかん、自動車盗難で危険を感じることはありませんか？

■ひたくりの時間帯発生状況



■自動車盗難の時間帯発生状況



場所によって適切な明るさの基準があります。

警察庁「安全・安心まちづくり推進要綱」 各部位別ごとにに応じて、こまかく照度基準が定められています。

道路		3 lx以上
公園・公衆トイレ	●公園内	3 lx以上
	●公衆トイレ周辺	50 lx以上
駐車・駐輪場	●車路	10 lx以上
	●駐車エリア	2 lx以上
	●駐車・駐輪場	3 lx以上

※東京都「安全・安心まちづくり条例」大阪府「安全なまちづくり条例」などでも同様の明るさ基準を設定。

数値は平均水平面照度を表します。 ※出典：警察庁「安全・安心まちづくり推進要綱」より抜粋

50 lx…10m先の人の顔・行動が明確に識別でき、誰であるかわかる程度以上の照度 20 lx…10m先の人の顔・行動が識別できる程度以上の照度

共同住宅	●共用玄関の内側 ●共用メールコーナー ●共用玄関の存する階のエレベータホール ●エレベータ内(かご内)	50 lx以上
	●共用玄関の外側 ●共用玄関以外の共用出入口 ●共用玄関の存する階以外のエレベータホール ●共用廊下・共用階段	20 lx以上
	●自転車置場・オートバイ置場 ●駐車場 ●歩道・車道などの通路 ●児童公園 ●広場または緑地など	3 lx以上

防犯街づくりにおける公共施設等の整備・管理に係る留意事項

第2留意すべき事項 1 「人の目」の確保(監視性の確保)

多くの人の目(視線)を自然な形で確保し、犯罪企図者に「犯罪行為を行えば第三者に目撃されるかも知れない」と感じさせることにより犯罪抑止を図る。このため、具体的には、以下のような事項に留意する。

(1) 照度

① 基本的事項

- イ 夜間において人の行動を視認できるよう、道路、公園、駐車場(※1)、駐輪場等の公共的な空間において、光害にも注意しつつ防犯灯、街路灯等により必要な照度(※2)を確保することが望ましい。
- ロ 公衆便所については、建物の入口付近及び内部において人の顔、行動を明確に識別できる程度以上の照度(※3)を確保することが望ましい。

(参考)

※1 駐車場法施行令第13条では、自動車の駐車のために供する部分の面積が500㎡以上の建築物である路外駐車場の照明装置に関して、自動車の車路の路面 10ルクス以上/自動車の駐車のために供する部分の床面 2ルクス以上と規定している。

※2 「人の行動を視認できる」ためには、4m先の人の挙動、姿勢等が識別できることを前提とすると、平均水平面照度(地面又は床面における平均照度。以下同じ。)が概ね3ルクス以上必要である。

※3 「人の顔、行動を明確に識別できる」ためには、10メートル先の人の顔及び行動が明確に識別でき、誰であるか明確に分かることを前提とすると、平均水平面照度が概ね50ルクス以上必要である。

防犯まちづくり関係省庁協議会より